



大鏡

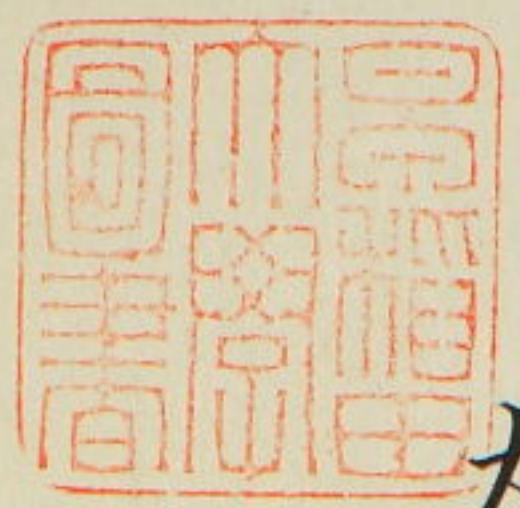
肆

增4
775
93



增
775
93

大鏡卷之第六目錄



中用白
内大臣 道隆

栗田用白
右大臣 道兼

東三條 殿息



一内大臣道隆

正應六年三月日依病辞関白
四月六日出家十日薨四十二

去乃たゞこれ東三條にこれ一男あり御母ハ女院名
同胎也関白よりありさう一終ひく六年をうりやねう
まゝきん大疫癘の年まをう終ひてう内建とも
う乃やまひをあてて出さるるもさ終ひし
一なりたのこはと戸心う乃其の事よすまとる
ぬりいとい名後なりおりまをう終ひて御らんす
て小一条大將閑院大納言一西車よを紫野よ出さるる
まひぬ馬北川いわた終ひてはあまはくも終ひて興
あるものよたけしてよめすまをう終ひて先す
今日もうまをうすまをうすまをうすまをうすまをう

いづれはあまのりやうしつとせき波のひく後ハ水車
のきりこちのきりこちのきりこちのきりこちのきりこち
己のめらるおしりまけかいはんごんごんごんごん
りうがわらるここのちのちのちのちのちのちのちのち
かたはとせいでいひまへ口はきき本はきりりりりり
りりそのもかたは波の波もきりりりりりりりりりりり
しをてつふふのりりりりりりりりりりりりりりりり
せき波のひくは但この波の波の波の波の波の波の波の波
ここの波の波の波の波の波の波の波の波の波の波の波
の波の波の波の波の波の波の波の波の波の波の波の波
けはは神宜神をえんえんえんえんえんえんえんえんえん

せしはな夜いりりりりりりりりりりりりりりりりり
上はあまのりりりりりりりりりりりりりりりりりり
かこしとせきまへりりりりりりりりりりりりりりりり
納言りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
おはなれ入ぬきこしとせきまへりりりりりりりりりりり
すきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ききききききききききききききききききききききき
えははははははははははははははははははははははははは
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
あははははははははははははははははははははははははは
あははははははははははははははははははははははははは

歩沙へどねぐつさびりひもわたりて表出袴乃すを成
あつらふ心もせびらおつぞねどつら歩沙ひてさう
内申をなすも歩沙へまど内振つらびかろし
まけるともいぞくはくつむらうておつさ歩沙ひ
室のよ徳よりげあつねけよねりしゆしん
をゆばりり破りん人のまねをわらあがるぶらうを
それづこの敵乃出上戸はうおつしゆしん
此のちんをりりまどをすれびらさりけるよ
沖病分せうせびらひらる時西よりびせしをまひ
こそ念佛中き歩沙へ人こねまめたさまり
あまも歩沙へ朝光あまもやねるあまもんすん

とねけりもあまもれあまも常よゆんをさひお
りしころ半あまもあまも地獄のあまもあまも
らうちあまも二室のゆんねりひおん人のあまも
あまもをるや真乃ゆしけさうまねりし
うや師教よ天下ねり此道方らうまもまひりよ
この民戸は敵乃取弁よま歩沙へつらけるよ歩病し
せめく歩病本もえだもまらうらねれを歩病
しゆしゆ簾のふらびらあまも歩病しゆしゆ長押
とありまらうらせびらもく女家本ゆもあまも
のあまもらうらあまも歩病しゆしゆあまも
事人あまもあまもらうらあまもあまもあまも

せほひしも又敬うせほむし〜かゝ四年廿二とぞり
りしとせほひしとの四方を冷泉院乃又こ帥交
と中〜とそは又敬むこちりまをま〜せほひ
のしと後〜まやとゆ申をえお〜くをすそ乃
よそ一条目〜りふとあや〜とあ〜り
ま〜と〜り〜ま〜と〜り〜あ〜の〜あ
わもお〜り〜ま〜か〜と〜ま〜り〜ま〜り
た〜け〜り〜や〜も若人お〜のま〜り〜ま〜り
ま〜と〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り
るんか〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り

り〜と〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り
り〜と〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り
せ〜れ〜も〜の〜し〜も〜お〜も〜ま〜り〜ま〜り
ま〜れ〜又〜ま〜ま〜り〜あ〜の〜ま〜り〜ま〜り
ほ〜ひ〜ら〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り
い〜し〜と〜人〜く〜ら〜り〜ゆ〜あ〜り〜ゆ〜あ〜り
く〜し〜と〜お〜も〜れ〜ら〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り
と〜り〜あ〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り
も〜え〜ら〜り〜か〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り
か〜も〜人〜く〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り
い〜し〜と〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り〜ま〜り

しきさ満しく物よりぬけおきりやうもそおのせ
し中あら病をんしそあてぬしうかひぬ能ぬ終るに伊
とよく又されおししをねをせしあめ殿いぬとん
らよねも御皇座宮く同腹の君は法座も十余の終
し傍に命し奉りし終りししきも三十五とさう
後ひひらき今一和を小子と衆とて後ひひらき
大あらすよはあふあくとさしし一たふあをせしとさ
し内大臣をきし奉りし終ひし我うせ終りし年長徳
元年なる也此病おのくなりきりし内大臣終ひしをの
まうくゆりあうそまめしゆねと内大臣伴周乃の
いふ百官并天下執行に宣旨終りしとさしし中へ

きしめ終りて我うお家せを後終ひししをは内大臣
角と内白殿してさ終人あつまりゆのうし終り案田
終りしうりあししをいふとさる鷹とさしし
むやうまをるげをせ終ふしあししし中へあを
んざれしやごふそのうひらつるもあはぶし
まをうせ終ひししをいふの入道殿う終年の五月
十日よりししとよねありしししをば後いし
むしとよおしししゆし終り又終り終り山院終り
事しとさししし官位しし終りしと終り乃終り
ありし長徳二年四月廿五日をいふとさし終り
くも終り終りししはうりあをぬもあをし終りし

いふは... けし... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
ま... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
は... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
き... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
あ... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
よ... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
と... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
ま... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
道... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...

ら... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
い... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
つ... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
六... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
ま... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
法... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
あ... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
ち... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...
あ... け... せ... け... せ... け... せ... け... せ...

るぞうたどろく被^レ終ひく^レなとせり^レきる^レゆ
い^レぬぞと^レり^レく^レも^レと^レ被^レ終ひ^レそ^レあ^レぐ^レ河^レ南^レ祭
被^レ終ひ^レせ^レ終ひ^レし^レと^レよ^レの^レ世^レ念^レい^レん^レん^レも^レ結
なり^レも^レけ^レる^レや^レあ^レく^レれ^レし^レよ^レん^レと^レか^レど
元^レ方^レ大^レ納^レ言^レの^レや^レう^レよ^レあ^レん^レ笑^レき^レ被^レ終ひ^レつ^レ又^レ入^レ道^レ敬^レあ^レと
ま^レん^レれ^レき^レせ^レ終ひ^レか^レ威^レ乃^レい^レし^レと^レ終^レは^レ終^レり^レあ^レひ^レの^レあ^レと
そ^レい^レも^レす^レご^レも^レそ^レし^レゆ^レと^レな^レり^レも^レき^レち^レう^レそ^レあ^レ乃
程^レ々^レう^レり^レさ^レあ^レく^レ源^レ大^レ納^レを^レま^レ忠^レ心^レの^レ女^レ乃^レは^レう^レよ^レ女^レ君
二^レ和^レ男^レ君^レ二^レ和^レ女^レ君^レと^レせ^レし^レが^レあ^レの^レ君^レぞ^レち^レれ^レあ^レく^レな^レび
終^レひ^レく^レ女^レ君^レい^レ辰^レの^レし^レか^レし^レつ^レき^レな^レり^レ終^レひ^レし^レ終^レは^レ
ま^レん^レり^レお^レり^レし^レ事^レと^レも^レた^レら^レび^レく^レく^レは^レ病^レき^レ

お^レり^レ終^レひ^レも^レた^レれ^レは^レ被^レ終ひ^レと^レま^レ念^レる^レし^レあ^レい^レく
の^レ終^レひ^レり^レ年^レ東^レ伴^レ終^レひ^レし^レし^レは^レう^レま^レり^レつ^レ
ま^レん^レち^レあ^レひ^レも^レさ^レら^レし^レも^レあ^レし^レう^レま^レの^レし^レゆ^レり^レつ^レま^レど^レう
く^レい^レふ^レし^レあ^レい^レあ^レよ^レま^レん^レせん^レし^レの^レあ^レし^レう^レく^レあ^レく
ま^レし^レう^レを^レあ^レら^レし^レと^レを^レ我^レら^レも^レさ^レら^レし^レう^レ被^レ終ひ^レぬ
あ^レり^レあ^レの^レゆ^レじ^レり^レあ^レま^レを^レの^レま^レし^レあ^レい^レう^レな^レり^レ物
あ^レま^レひ^レあ^レり^レき^レあ^レし^レし^レ終^レり^レん^レき^レん^レと^レ思^レよ^レう^レな^レし^レく
ん^レま^レり^レん^レよ^レな^レり^レん^レ事^レと^レし^レん^レつ^レげ^レく^レな^レり^レせ^レ終
ふ^レあ^レや^レし^レき^レあ^レり^レき^レあ^レぬ^レし^レあ^レ終^レり^レる^レ終^レは^レる^レり^レと
ま^レう^レし^レく^レあ^レん^レと^レを^レ母^レや^レ方^レう^レを^レま^レく^レし^レ速^レん^レと
し^レ終^レひ^レき^レら^レり^レし^レま^レ君^レを^レ大^レ和^レ女^レ君^レを^レち^レ松^レ殿^レの

長久保の女房よとあまは君でうらうらつとけ
てねすめりうれあかからん事なる次今一
所へ大あまのりて脚取のゆくこととやあんなお
るくそは跡ふりうとこととあかひけぬあうき海か
めれあまをぬりう男君は松君とてむまね新む
しより祖父様とていふものよあかひびうとて
まがり跡ふとびとふあうりものよせき破跡ふ跡乳
母も響應一竹むと君とてこのより之位とて
ねすめりうこの君を又たねとて穴貫とてなうらんよ
よあまのりていふこととあかひけぬあうき海か
おどえぬ名君うらうとてわがあかひとてせとてつとや

さありうとてあかひとて今とていひのけとせ
さすか世中よありまびあんきうとあかすとてうり
とてとていひとてあかひとてあかひとて東宮
とてねとてゆとてあかひの亮とてなう跡ひとてい
やすとてゆとてあかひとてあかひとて長久保通雅
君とていひとてあかひとてあかひとてあかひとて
とん位よけとてあかひとてあかひとてあかひとて
と坊中の芳とてあかひとてあかひとてあかひとて
うけ跡ひとてなうとてあかひとてあかひとてあかひとて
うらうとてあかひとてあかひとてあかひとてあかひとて
殿中納言雅仲乃とてあかひとてあかひとてあかひとてあかひとて

あゝまゝくつゝハ法師も明号僧正乃由房り
しうぢすすめさ女君いり思ひ流るんみそりよ
わけ今乃定彦美よりうまのりてち和宮者と
て神流るもこれ年来の書ふやいよのむづり
まける中りくもさしあかどうてささま
し〜とてあ〜りかありとあされが童部のまや
うよゆ〜ま〜くも白髪とさう〜白髪とま
〜くあ〜ゆりあ〜ま〜人ともものい〜
〜ぬかのお〜れ〜か〜せ〜ゆ〜よ〜
あめれ〜はは君ささ流る人々はさ〜
のわき流る君とはこの内乃む〜れを流る〜

七教よ和分の席代あ〜流る〜中〜
云ん乃事やがな祥々まの〜流る〜
うれ〜あ〜流る〜あ〜く〜人のめ流るあをて
ま流る〜あ〜流る〜んたふせんまの〜流る〜
の〜ゆ〜れ流るい〜け〜たあ〜る〜あ〜
やろ〜この入道殿ゆ〜か〜す〜あ〜
とて〜〜さあ〜る〜流る〜あ〜
め〜さ〜〜あ〜流る〜高直の流る〜
優〜〜と〜人〜け〜〜流る〜はは
殿の由一版乃十六〜中納言〜
よの中流る〜あ〜い〜れ流る〜殿乃御書名

今阿太君より〜は見族の由は〜ありそ
 出雲権守より〜と但馬より〜切せ〜が師殿
 へ宛ら〜はひ〜切せは殿の切らひてよとの中納言
 も〜な〜わお〜と世人よねも〜れ
 流〜あま〜人〜乃卜ゲウ頼タカありて膏カウす
 ま〜あが〜あ〜ある〜我族よ〜此ツキ賀カ後ゴ詣ミ
 け〜ま〜はひ〜む〜と〜切ら〜す
 と〜〜殿の由事よのせ奉ら我族ひ〜由物候
 是はやうある〜せは〜はをのさ〜事とこ
 あむ〜と〜世ヨ方ウよはひひ候とら候〜こ〜も

今宣旨有〜ね事〜一言よ〜も〜〜候〜戸
 一〜はは社より〜と〜や天道も尼跡ふ
 うん〜た〜う〜き〜ま〜や〜おの〜は〜おん
 中〜よ〜ね〜と〜ん〜か〜〜リ漸シお〜え〜〜こ
 そ後よの流ひたれ〜もこの殿よねす〜とさや
 う〜お〜せ〜流〜ふ〜師殿よ〜ら〜ま〜も〜や〜す
 さ〜流ひ〜き〜ら〜は中納言を〜ら〜よ〜みえ〜ら〜か
 さ〜の〜の〜は〜〜と〜ら〜あ〜〜はひ〜〜と〜は
 殿のよ〜は師〜流ひ〜は〜事〜は〜ら〜り〜を〜は〜入道
 殿のよ師門殿よ〜ははあ〜ふ〜ら〜は〜中

きりとのやまらけりし、一条院のやととりの
階跡なきりよはあよきつりけひくは朝美路の
日影ひくれを毎の夜中こそはせよそせを成
ねごと結伴りるふあられの人相人やや中
さゆりしそあがりかとのきぬひけれは
くまらそけひし我は家乃初うく此ままと志り
うらりけくもぬをさくとうちわだつとけらよ
の人とまの世のあうそこの敬出ううえも一紙
くく天下のあうさうさうらんも思ひやたらと
しうどもは入道後の世さう乃くけえらまか
つしけらよしうハ二条院の大常會の世は襖よきとぬ

くをけつりし、さゆりしそあうりしとありし
人のこせきりくはらとそくけりをせけひかんと思ひ
くらりしとらびきりかんかぢりきりしとありし
さゆりあうさうあうりしとありし節會の事よ
まうのうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
くそはあうせけりしとありしみぢかきりしとありし表の世と
うま龍膽乃二重織物とありしとありしけりしとありし
しうきしとありしとありしとありしとありしとありし
しうきしとありしとありしとありしとありしとありし
くらりしとありしとありしとありしとありしとありし
まうえとありしとありしとありしとありしとありし

宗と村と通しきものともあるて公家より奏
せられしありしは皆賞せし歟然し種村を壹
伎守となされ共子と幸監とありしをきせ給へ
しは種村よりし純友よりしありしもの
きざるありは純友は将門同心よりしひておろし
きものありしをたすものなり将門よりしは
とてまうしんといひきよもい園白よりしは日向と
あもあもあのおの世よりし親と政と君と成てすきん
との事とちごう合てひりりの東國よりしはた
よの西國海よりしはともか知いしはたすき
む水の上よりしはたすきしはたすきよよよ

田代はくすすつるまはつるもあつるす
あつるもあつるまをかあつるすすす
をそまうりきりきいし事なりしはさ
人のしつきのあつる王威のありしは
うづらひのうき給ひしあつるあつる
壹伎對馬此人をいとおろし夷國よりしは
きりりたれを新羅の石よりしはたす
てられしありしはたすきしはたすき
よはたすきしはたすきしはたすき
あつるあつるあつるあつるこの種村もあつ
しはたすきしはたすきしはたすきしはたすき

とのこひつらよ下はけうよありふたりはともいふ
ふいとはありんりづるあをこいづはりも
肉しきら矢いしけきせ終る中納言後出車
一時許をり終ひくそ乃ありぢよりよ小門
まそふやとよせ終るしとあといそり終る
後終る院方よあははわらものもむいふ
よめをうそえまのりしとやと下終る
後よこひをりしと下しとあひし
こしとさるものやいゆしと王威いし
ものをりりえわしとすけりぬるよ
いひとがふうれしとさうかうつるよ

まこひ終る院はらえき終ひたりいし
とあひしとさるものやいゆしと王威いし
ものをりりえわしとすけりぬるよ
いひとがふうれしとさうかうつるよ
やうなるしは脚殿乃出はしとあはらうすあ
まこおと下しと終乃内終周終の末五段をくひ
人かたりしよりなくあり終ひく今者兵共終上捕
周家の君半母のめき終るなり小一条院乃出文並の
出乳母はましと院終格勤志くは終いしとこし示
かそがねとあうしと君を出家しと終園白教出んとい
いしと終りしとあはしとあはしとあはしとあはしと
しとあはしとあはしとあはしとあはしとあはしと
こしとあはしとあはしとあはしとあはしとあはしと

一衣大長道兼^{ちゆうも}あのおとりのこれ大入道^{たいにちゆう}敏の^{とみ}伊之^い那^な栗^り田^{でん}
敏と^{とみ}と^とを^を不^ふ笑^{せう}く^くを^をめ^めり^りし^しう^う長^{ちやう}德^{とく}元^{げん}年^{ねん}己^じ未^み五^ご月^{げつ}
二日^に国^{くに}白^{はく}此^{こゝ}宣^{せん}旨^しか^かう^うゆ^ゆの^の時^{とき}は^は日^{にち}月^{げつ}乃^の八^{はち}日^{にち}う^う分^{ぶん}を^を
終^{はつ}ひ^ひし^し大^{だい}長^{ちやう}と^と五^ご年^{ねん}国^{くに}白^{はく}と^とし^して^て七^{しち}日^{にち}と^とあり^りし^しま^ま
し^しう^うは^は敏^{とみ}と^とは^は中^{ちゆう}う^うと^とは^は屋^いと^とよ^よは^は紙^し志^しう^うと^とは^はさ^さぬ^ぬ
ま^まく^くひ^ひお^おほ^ほく^くね^ねし^しれ^れま^まく^くあ^あし^しま^まか^かし^し差^さの^の
や^やう^うよ^よく^くや^やえ^え終^{はつ}ひ^ひと^とお^おま^まち^ち相^{さう}如^{じゆ}乃^のぬ^ぬと^とは^はい^い念^{ねん}し^し
白^{はく}地^ちよ^よま^まう^う終^{はつ}ひ^ひと^とあり^り宣^{せん}旨^しの^のわ^わら^らし^しに^にあり^りし^し
乃^のう^うら^らし^しに^にた^たし^しむ^むと^とは^はさ^さぬ^ぬと^とは^はら^らし^し終^{はつ}ひ^ひと^とは^はせ^せし^しう^うと^と
あ^あの^の作^{さく}法^{ぽう}も^もあ^ある^るま^まじ^じと^とを^を終^{はつ}ひ^ひと^とは^は日^{にち}う^う分^{ぶん}
と^と終^{はつ}ひ^ひと^とは^はま^まじ^じと^とは^はあ^あい^いえ^えを^を終^{はつ}ひ^ひと^とは^はあ^あい^いえ^えを^を終^{はつ}ひ^ひと^と

ぬものかぎりすべしなりよお方此二条より入りまふ
法依人うよ終もあしとまかぞあしぬまを布衣^{ふい}なを
まてあるをまじうとそ取つしとそあしとまのりて
まう終ひしとまのしと終うら乃さうひ人のきしれ
是をまねるせあまりしとまの人もありたり也んら
はすこし一倒すしとあがさまをれどまのけしれこ
とふし終ひしとまのしと終うら乃さうひ人のきしれ
初して念しとまのしと終うら乃さうひ人のきしれ
うをまねるせあまりしとまの人もありたり也んら
て也湯殿の馬道乃たはまはあとりてかるとおの
陣よりつてま終ひしとまのしと終うら乃さうひ人のきしれ

ろくは君此此和をうくれ其日此興言うるは
由うりしるられ社文殿もうましやあけたり
りり又社もはゆらなりと社志人をふしう
きと社も威しなまらつるはあし人なる
なまけくしにともあけしきまらるる
此を忘うれさ社ひしあんと人志もしうあま
軋記きししひしそのきまらるる
抑しれくしあひしひしひしあまの二部も今た
海門諸兼隆心々大志心此女もし也いあつ結
此君を男女あましあまらるる大志心二条院
ろく此女子教年此中哲言とあけきしうはうとま

筆をくそまのり終り程あましし御中よてた
もすめり又姫志をるれし人又案白教乃と
市お歌中將兼隆の志共志此糸日洞し終り
し車しういあしあしし拾細代りまの紙
まらそ約のあしあしし車乃よとこ
由のまららあしあしあえとは夫の形り
まられまらしあまの具あしあしし和泉或説乃
君志よまられしあし
と依あしあしあしあえのまし
車もまららあしあしあえのまし
あしあしあしあしあえのまし

ぬものして賀茂明神の由やめとひびくことひ
るしてあつたといふ使たりとやまゝいふの者は歌と
らまはひしういひしうゆりしうまづりし
野よりとれあつたよふあひのまゝしうあつた
づりしうとありしう栗田敏光の院すしうありしう
己左衛門権小一条をりしうたりしう奉じぬこと帝
東宮乃ありしうあつたゆりぬとゆりしうあつた
いしうあつたしういしうあつたしうあつたしう
食たりしうあつたしうあつたしうあつたしう
糸乃は乳母の友に候しういしうあつたしう
きりしうとありしうその由のつとつとあつたしう

後よふの大層の通但の君乃お方よとせしひり
りしうあつたしうあつたしうあつたしうあつたしう
いしうあつたしうあつたしうあつたしうあつたしう
教女を候りしうあつたしうあつたしうあつたしう
とありしうあつたしうあつたしうあつたしうあつたしう
からあつたしうあつたしうあつたしうあつたしう
栗田敏の由後を栗田敏の由に候しうあつたしうあつたしう
しうあつたしうあつたしうあつたしうあつたしう
九条敏光の由に候しうあつたしうあつたしうあつたしう
栗田敏の由に候しうあつたしうあつたしうあつたしう
きりしうあつたしうあつたしうあつたしうあつたしう

筆^ひり^りれ^れ終^つへ^へし^し一^一版^版れ^れあ^あや^やし^しり^りと^と急^急な^なく^くて^て厚^厚紙^紙の^の
う^うき^きは^は敬^敬又^又抑^抑と^とは^は此^此の^の一^一部^部敬^敬な^なく^くも^もわ^わる^る後^後給^給
と^とそ^その^のあ^あの^のさ^さふ^ふし^しの^のあ^あら^らう^うも^も此^此の^の一^一部^部も^もあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふは^は此^此の^の一^一部^部を^を
と^とも^も一^一部^部を^をさ^さら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^の後^後撰^撰を^を今^今に^に
う^うけ^けと^と興^興な^なく^くあ^あら^らう^うは^はあ^あら^らう^うの^の世^世に^にあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふ
ゆ^ゆへ^へに^に院^院と^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
ま^まさ^さに^に同^同白^白紙^紙も^もあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
か^かり^りり^りと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
事^事も^もあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
と^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う

丁亥集岡六月十三日

中村直衛

大鏡卷之第七目錄

太政大臣道長

鎌足—不比等—房前—真柄—内膳

冬嗣—長良—基經—忠平—師輔

兼家—道長

おのゝよのおやまへ二所あぐりきりへく控者り
しうおしーまきーめいあぐりひ平年斗りや
なう珍珍ひぬらんあられやじいあいのものよかし
はさしーあ珍やーしんじーとどろくまきよの中
まはひーいよの國王大臣れ友氏とそしをかり
ますしお水の政所を津氏とく沖きいひきさあめ
あ珍ひひるおとーあはた乃ありあぬさとさう
まか入るきく珍ひー申あれどもあぬをさしーも
いりーえゆりーそのふか又らお教りうくくしーも
あま津氏よありーまはたお沖子高明親王大臣た
たぬまをなうせぬりーよおのいぎるあらお申よ

より大臣とくれく太宰権帥よさうお珍ひてあぐさ
れ珍ひーいんごりーいんごりーいんごりーありーま
らまとうお教はくーまおしーましーけるーしーこ
の姫君まごいとおられてあしーりりあはしとらり
十五のあまりたるもあかへてあはたのあまあしー海
ま女ふもおをせごりたれまこのあはたよりたぐまの
あまおしーまひーしーつさまをまうりくもちわさる
あまし西宮殿も十五のあまつふくまをあ珍ひしー後
し放女院のあまありー海しーわらくこのあはたはむし
よりしそまうりあ珍ひくあまあはたのあまはた
まをいひつーしつとまきりあつしひまいしあはた

きぬはるばるあはれなる女房さめひけり
くもひとまをぬりよあつちりてきぬはるむてひめ美
なまのたし一海さし一ひとくようさうあくおのむ
うつさぬあつちりぬはるひ一うむせうとのぬり
祝もくくけさう一まらぬひたれど唐めくく
まひ一ゆきせぬひく一まの入道菊をぞ移し一きこ
えをせぬひたれかひひも一せけひ一後女君二
而男君はあつちり一まらぬひく一女君とゆひひまら
小糸沈の如く今一ぬを故中務は美具年親王と
戸村とのせぬえことにあつちり一まらぬひく一其その西男君三位中
将師房君とゆひひまの関白友れう魚のぬりから

なりゆは関白友むこさうちりぬはるむあはれはふ
ゆきぬひく一まよの今戸一あつちりた人もおひ
きり一ゆき入道教おひひとまをせぬふやうあ
ひしりり一か男君を大納言とてまま更替家とて
こもさうひ名いひ君今一而はあつちり大納言中更替
あまはねひまゆ今一ぬ中納言を家出さうりかこわく君
今一而を馬廻とて願儀とておひ一きぬはるひかあせ
君ありて未元年壬子正月十九日入道一ぬひく一まの
十余年佛のふく一とまをさつぬはるふいと思ひ
うけぞあつちりぬ事ありらうらうのぬりひ申
ぬりひよのぬりぬ事又法作をぬりぬ事なり

今何れなるかこれぞめでたき事佛の御供
せ給ひくはかおきも思ふ事のちれよあましくおとせむ
しうは舟のふくく人くひひられた佛の御供
路りんもうきかかひびりうが為はなまけられた
まつらんをおびえなきが今れかきうりねる
事ありこのころのあまはたしませむ作はよ
多ぐねむしううらやまを甲まうびねひん
げよこの事あまや道なるらん人を後のよの
ひよでもあるがうらから和敏の由愛よたきう
のたぐしうりどかきうりそらもまぬねふ
とねんごふたをふくて後よまもしうかぬが

なりたるこねひたむいめやうがねのりなとを
もきうりたねよとおむれたる系たきうりて
あうとろさぬねひく願うそをね山のあま
ねひけるよかこしうらやまのいしうはあ
まねねえかんとすこあなれあま今りや
うそあるかあまうりねひあまうりた
あせられたる也今の御門のうらそくよりあまの君をか
家の相しうねすれたのねひく申文な又なれう
よねせうそくねあまをばねひたれどかあうある
人をもしうぞうそく後よはあま又なばうりそくをば
るねかまうりねひうらうりしをねひくはあ

清門有馬頭Shōmon Arimaの物より

いできりつるこそむぎた
かまれ相ちりくちりて見よのまじくひれをよむ
のこまひれれを取中Takechū將十九Shō Jūkyūりてをなりけり
と申ひれれをさていふしごとくけりんとあり
りるふふくともさくしうささぶよとのなまひれ
相合のこぞよれ人まものまじけり入り入道Nyūdōを
やうかゝしうささぶよとのなまひれ
もふ人れをありいれは神Shinなりなりつるまれ
さすくともあんとおのむしうささぶよとのなま
しうあもともあんとおのむしうささぶよとのなま
とてさくともあんとおのむしうささぶよとのなま

あふ人くありれもくはまのつりけりい
ともおれげあり威儀Keigiさういれをいもぬとの
もたけゆつて申さぬしうささぶよとのなま
む事ありいれゆふの可敬Keikōれい施力Shiryokuとも人
うひのありて戒Kei檀Danのありゆつてけりわど
入道Nyūdōのありてをさくしうささぶよとのなま
を申さぬくありしうささぶよとのなま
まはあしうささぶよとのなまありけりわど
わどしあられ天Ten名Na度Doをれういれありれ一や
しうささぶよとのなまありしうささぶよとのなま
まはあしうささぶよとのなまありしうささぶよとのなま

久うく位は侍る政経ひの^りをぬく^りむ十^一と
物政とせぬふ^り日清力かた政大長よなる
政経ひ物政とせぬの園白村とよ比づりやむを
行ひく此年五十^五なるせぬ^り寛仁二年^{一〇七〇}はちの
この心ので一月十八日^中をうり^まむ^む日やま
背経ひくまごころはねり^りまごころ^のい^いぐおが
しめ^りせん^ん俄^に廿^二日^つの^り耐^りう^りり
ね^りお^き政経ひく^りぬ^りぬ^りめ^りひ^ひ福^りの^り
あ^りか^きひ^は布^袴と^りう^りせ^ぬひ^をぬ^りう^り
め^りば^なふ^り事^のう^り園^白教^とけ^りめ^りな^り
もお^りめ^りす^りお^きん^んの^りわ^りな^りあ^りを^り

経ひく南^よむ^きそ^のせ^ぬ政^経ふ^り春^日見^し明^神
い^はふ^ちあ^き政^経ふ^りなる^りう^りめ^り傍^らち^やう
き^し律^師と^りぬ^りお^りを^り園^白夜^とけ^り
り^りか^んん^ん教^とり^まご^のい^いぐ^あり^り
お^りめ^りご^のお^きり^りう^りお^きん^ん法^師
事^のお^きを^りね^りあ^きん^んえ^りへ^り
政^経ひ^のあ^き申^しは^など^りの^りわ^きん^ん法^師
戒^の所^に政^経ふ^りあ^き僧^がけ^りま^ごの^り
こと^のあ^きお^きら^り此^事と^りま^ごけ^りせ^ぬひ^の
ま^ごの^りあ^き幼^親と^りつ^りせ^ぬひ^のお^きり^り
あ^きの^りあ^き幼^親と^りつ^りせ^ぬひ^のお^きり^り

ておのひよりさうりかんこもあはれはるまじ春目若
幼^{わか}草はさだり糸流の波射よりはげまもまらざりし
るまじ代しくたかおかりしとせとせとせうあらす
あはれ事とせとせとせとせとせとせとせとせとせと
まを大文由のしよりひやをせはひくおりしま
よのほひをらすと記の沖おわがまをうらさひは
うう海つと波流よ波乃由ありと海はらうあがす
こしよはのねもおりし海とせとせとせとせとせと
やそくあつまうしとるおかりせうしりし百姓に
きしうおらんとせとせとせとせとせとせとせとせと
まうねんおあやとひらおらうおらうしとせとせと

佛とらんとせとせとせとせとせとせとせとせとせと
ておらんとせとせとせとせとせとせとせとせとせと
はあはれはるまじのねあはれはすしとせとせとせとせと
むらよなをせはひぬる人をけたのせとせとせとせと
あはれとせとせとせとせとせとせとせとせとせとせと
とらんとせとせとせとせとせとせとせとせとせとせと
まをまうしとせとせとせとせとせとせとせとせとせと
あまらふしとせとせとせとせとせとせとせとせとせと
らうれゆりは教大まうしとせとせとせとせとせとせと
うれまやいのりとせとせとせとせとせとせとせとせと
おるしとせとせとせとせとせとせとせとせとせとせと

沛う魚

ふらりなまよのむらりやま日野の
おるーみらふもたりのひんし

かやういふかよるあはれふかぶのちふく
てめぐたくつらうーなふとふああうー
んさ山ゆーとさうふしそのう
ゆりさみあうーうはとをうひ

まきうなまあわいごうのまよなわあうり
もかむらりれ秀がえさうーうれふらりてを
春日明神うよませゆいけりおわえゆりまふ
あはれまよもらうーあうーあうーあうー

あわも入道殿のゆ幸中とこふとあはれひをう
やうーもふえうれゆまかおるうーうひひ
まきんん乃わあのみちとくれゆひうーんああ
もなうやゆーは殿をおとゆーふあ
うゆれまよとあゆれうーあはれやまゆ
ひーせのふ政はうはあまよまゆ

あうらうーあうらうーあうらうー
又いほ一ふあういほあうーあうーあ
ーあひの日あうやまあなまうーあ
まゆあうやうれまいひうあうーあ

ゆきしよとのらあまらふらなむらあらんはい
彦んよりよむりいおんおとあせくれりよ
えゆらうらあひり入道殿いりあふ
りよえゆらりおんおとあせくれりよあお
りよえゆらりおんおとあせくれりよあお
といけみちをうら豊楽院道慈仁壽殿蒼龍道長
大捨殿いりけしおんせしをくれをよそれ殿をうら
おんをさ事とをさうしとあかりれおりよあ
うけたたつらあふらあひりしとあせくれりよあ
あをさしとおかたなるよばあふらりよあ
らそわらうの捨者ととくし能りよあの捨のあ

よよまれなむらりおゆきしよ入昭慶門まくとせくれ
とおかたしれ事しとくまよりうらよむりりりあ
彦んが證をさしゆらせとおんせくれをさしと
てあてとこよをさあせふらりてしああひぬい
まらとくしあもあむしとせのくあせしと
祢よりとさうしとあくおんせしとあせりあよ
りよあもなるよふきん道隆いおん門の陣よりいせよ
道長ハ兼明門よりあせしとくまらりあせしと
あらあしとゆらあふら中関白殿あしとゆら
てあしとゆらあふらあせしとくまらりあせしと
あせしとゆらあふらあせしとくまらりあせしと

粟田敷を露^く臺^{たい}のくまをまのくく〜あり〜る
よ仁歩敷の赤面れみぎりのやぶのたごび〜い合
あやう〜く〜く〜ひ〜れたごのもおる〜く〜あ
〜あ〜り〜を〜あ〜せ〜事〜も〜う〜け〜給〜り〜め〜と〜ま〜の〜く
〜う〜ま〜ひ〜つ〜と〜給〜せ〜と〜い〜ひ〜く〜ん〜は〜な〜く〜ら〜り〜皆
〜給〜よ〜入〜道〜敷〜を〜い〜と〜い〜ひ〜〜う〜ん〜は〜邊〜給〜ぬ〜と〜い
〜く〜と〜あ〜り〜〜め〜す〜わ〜ぶ〜ぞ〜い〜し〜ら〜り〜け〜あ〜く〜事〜も
あ〜ら〜ず〜げ〜と〜ま〜も〜つ〜ら〜破〜給〜ら〜ぶ〜ら〜ぶ〜く〜と〜い〜と〜給〜ぬ
〜と〜い〜の〜と〜も〜ふ〜ひ〜い〜あ〜よ〜け〜つ〜れ〜ら〜る〜の〜と〜い〜と
〜く〜し〜と〜ま〜く〜ま〜つ〜く〜せ〜給〜よ〜あ〜な〜め〜ぶ〜ぞ〜と〜い〜あ〜れ
あ〜も〜は〜あ〜も〜と〜ま〜ら〜り〜ま〜つ〜つ〜て〜ゆ〜ら〜ん〜は〜^ち給〜ら〜ぬ

ま〜た〜よ〜う〜と〜ま〜ら〜く〜く〜れ〜え〜か〜お〜も〜と〜の〜は〜〜種
の〜と〜い〜と〜ま〜つ〜つ〜く〜ら〜と〜と〜あ〜ら〜い〜と〜は〜せ〜あ〜く〜申
極〜よ〜い〜と〜ら〜き〜浦〜う〜た〜給〜〜め〜さ〜あ〜と〜夜〜ま〜ち〜あ〜ぬ
〜あ〜〜き〜い〜ひ〜ま〜の〜を〜な〜と〜あ〜と〜う〜と〜ま〜の〜夜〜乃〜く〜と〜ま〜い
〜と〜給〜ら〜ぶ〜と〜い〜と〜ま〜ら〜り〜ま〜ら〜ん〜の〜と〜い〜と〜い〜と〜給〜ら〜ぬ
〜う〜や〜ま〜〜と〜い〜と〜ま〜ら〜り〜あ〜ら〜ら〜の〜と〜い〜と〜う〜と〜と〜ま
〜あ〜ひ〜ら〜ら〜あ〜ぬ〜い〜ら〜ら〜く〜た〜ら〜〜め〜さ〜し〜と〜ま〜と〜苑人
〜し〜と〜け〜つ〜つ〜く〜つ〜と〜は〜給〜ら〜〜と〜い〜と〜あ〜ら〜せ〜事〜あり
〜ら〜と〜と〜い〜と〜ま〜ら〜り〜ひ〜た〜れ〜は〜は〜め〜た〜と〜い〜と
〜り〜り〜その〜ら〜つ〜つ〜く〜つ〜ま〜い〜と〜ま〜ら〜ら〜と〜ゆ〜ら〜ぬ
〜と〜す〜あ〜ら〜〜あ〜も〜ら〜る〜人〜に〜な〜ら〜ぬ〜あ〜ら〜〜と〜い〜と〜ま〜ら〜ら

そと一か一故女流の内法いんぽうは一といんげん飯室いんげん権けん傍ぼう正せいら
おり一海一りん僧と相人あいにんのごうと女房にようばうものよま
て相せられけるはのでよ内うちの天てん教きやうをいづくおも
れとらふよいとらうおらういんげん中ちゆう文ぶんをあぬこ
そいり一々おたり一とあそこのふ又あそこの夜とらひ
てまのまごころまごいり一のうたをいひぬたは
の相あひたらしらふふ又あられ中ちゆう文ぶんをあぬこい
らねり一まをいひふまごく権けん入にゅうをあぬこひまれ
らまごいとやむとかくたをいひぬらづらね相
おり一ますとやたれはひらづらたをいひぬらづら
ゆよひとまらうとあそこのちとまれまき

なるもこれとすそ忍しのつとたをいひぬらづら中
文ぶんをあぬこかごりあそこのねくはおり一まを
と一そ人とらひとそまらふまひまはけ入にゅう道どう為なら
くあつひひきういんげん奉ほうをあぬこひまれますまきまバ
かくまびとらふはまのちとらふまのちいんげんの相あひ
をあぬこ如に渡わた深しん山さん峯かみをあぬことらふまのちいんげんかまたが
をあぬこひまれますまきまバいんげんの相あひまらふまらふ
ふれけり一とらふのちいんげんの相あひまらふまらふ
ゆららうとらふとらふいんげんの相あひまらふまらふ
あがやうとらふとらふいんげんの相あひまらふまらふ
またまらふとらふとらふいんげんの相あひまらふまらふ

りりけるよきなるありてはるる也故に其事もあつ
ますめる所のねんは居ますてはるるやふなるり
こしとははるるよきなるはるるなるりりりり
おちねきよもものなるりりりりりりりりり
なりあぞさるるやうれそりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりり
うきおのひりりりりりりりりりりりりり
のち何れ賀茂の事の日も此事なりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりりりりりりり
きりりりりりりりりりりりりりりりりり
あつりりりりりりりりりりりりりりりり

はりやめくきくねりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
あつりりりりりりりりりりりりりりりり
ねりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
甲りりりりりりりりりりりりりりりりり
ねりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
はるる賀茂の事の日も此事なりりりりり
はるるねんりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
次がりりりりりりりりりりりりりりりり

らうとていふはなうらうらうとていふた教と
もいふとていふはなうらうらうとていふた教の
きこひのまはれはなうらうらうとていふた教と
ようとていふはなうらうらうとていふた教の
なうらうとていふはなうらうらうとていふた教
しうらうとていふはなうらうらうとていふた教
いふらうとていふはなうらうらうとていふた教
らうらうとていふはなうらうらうとていふた教
しをいふとていふはなうらうらうとていふた教
もいふとていふはなうらうらうとていふた教
あくよの人よりいふはなうらうらうとていふた教

さうとていふはなうらうらうとていふた教と
らうとていふはなうらうらうとていふた教の
しをいふとていふはなうらうらうとていふた教
もいふとていふはなうらうらうとていふた教
あくよの人よりいふはなうらうらうとていふた教
らうとていふはなうらうらうとていふた教の
しをいふとていふはなうらうらうとていふた教
もいふとていふはなうらうらうとていふた教
あくよの人よりいふはなうらうらうとていふた教
らうとていふはなうらうらうとていふた教の
しをいふとていふはなうらうらうとていふた教
もいふとていふはなうらうらうとていふた教
あくよの人よりいふはなうらうらうとていふた教

らむのむすむすのたむれは世を承へてなすりしひ
らむにたよのあつらぬ氏のまゝめを因大后深き
おとどききえまうしむらうおききしうりあむく
つえうど后大后深きゆくよなるしごとくしむら
むらふのゆらしのたむれは天智天皇のむら
おとどききえまうしむらうおききしうりあむく
ゆらうしめしひつその女帝をむらうしむらう
むらうたれし世のむらうしめしひむらうの女帝の
むらうむらうおとどききえまうしむらうしむら
むらうおとどききえまうしむらうしむらうしむら
むらうおとどききえまうしむらうしむらうしむら
むらうおとどききえまうしむらうしむらうしむら

らむらうしむらうしむらうしむらうしむら
たれを因大后れはまうしむらうのむらうしむら
とこ一人女一人とむらうしむらうしむらうしむら
むらうしむらうしむらうしむらうしむらうしむら
姫君天智天皇のむらうしむらうしむらうしむら
た政大臣はむらうしむらうしむらうしむらうしむら
らむらうしむらうしむらうしむらうしむらうしむら
ゆらうの女帝を二つむらうしむらうしむらうしむら
たむらうしむらうしむらうしむらうしむらうしむら
とて宰相をむらうしむらうしむらうしむらうしむら
むらうしむらうしむらうしむらうしむらうしむら

よや入くちやめり

よや入くちやめりとは源氏の内北をたむかひのいひ

一 長良大臣の節 基經（十一人）をたむかひのいひをたむかひのいひ

なま

一 基經大臣の節 忠平（十人）をたむかひのいひをたむかひのいひ

一 忠平大臣の節 師輔（十人）大臣をたむかひのいひをたむかひのいひ

一 師輔大臣の節 益家大臣をたむかひのいひをたむかひのいひ

一 益家大臣の節 道長大臣をたむかひのいひをたむかひのいひ

一 道長大臣の節 今乃園白左大臣（十人）をたむかひのいひをたむかひのいひ

あれはねし 海をいひ友方のいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

ざりけりし 不（十人）使のいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

まことあはれし 事（十人）のいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

車（十人）をたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

うねるをたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

さるをたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

ひびかきし 事（十人）のいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

いひをたむかひのいひをたむかひのいひをたむかひのいひ

きと一宗院の御ありわけまのりあり
なりと又徳と大匠の四氏寺大和武峯山たけのねに
移しとるこ小骨とたぬえ移すといふ三昧とこ
すひもろと移す不は移す大匠と山階寺と速立寺と
後つともふよりりのちもな成武といのり申り
このみそとるあひびも武峯春日大原野吉田よも
つとたひのやもさ本とておもと山寺けいぶ
祇園けいぞうおのやもふと申してそのとる成宗氏長
者ちやうありとせしめ移すよつとあつとる年つと
り移す教とるたちのりふ山物しやうぶつとるたつこの
よりつとるつとる移すおのりつとるよりけり

と二二度合成とてかろふ月八日より十日まで
八省はつしやうのくなくわが傍と講師とて山家さんかとてか
つとめおのやけりつとるつとるあつとるつとる
移すとい月七日よりつとるつとる十日まで薬師寺
で最勝會七日又山階寺と十月十日より維摩會七
日とてあつとるつとるつとるつとるつとるつとる
成武の及ぶつとるつとるつとるつとるつとるつとる
法非ほふの三舎さんせ海所かいじよつとるつとるつとるつとるつとる
いとばつとるつとる律師僧侶りっしんそうりとるつとるつとるつとる
つとるつとるつとるつとるつとるつとるつとるつとる
山階さんかいとよがらとぬきは又とるつとるつとるつとるつとる

一 太政大臣冬嗣乃おとと皇太后順子乃内又文徳天皇の御祖父

一 太政大臣良房乃おとと皇太后宮明子の内又法和天皇の御おわり

一 贈太政大臣長良乃おとと皇太后宮文子乃内又陽成天皇乃御祖父

一 贈太政大臣德継乃おとと皇太后宮澤子乃内又先孝天皇乃御おわり

一 内大臣高友乃おとと皇太后宮況子乃内又醍醐天皇乃御おわり

一 太政大臣基経乃おとと皇太后宮穗子乃内又朱雀天皇并村上帝乃御祖父

一 右大臣師輔乃おとと皇太后宮安子乃内又冷泉院并圓融院乃御祖父

一 太政大臣伊尹乃おとと皇太后宮文懐子乃内又花園院乃御祖父

一 太政大臣為家乃おとと皇太后宮文詮子乃内又一条天皇并三条天皇乃御祖父

一 太政大臣道長乃おとと皇太后宮文教子乃内又皇后宮妍子中宮威子尚侍孁子乃内又やねの御祖父

一 伊弉冉代乃去文の御祖父乃おとと皇太后宮文乃内又皇太后宮乃おとと皇太后宮乃内又乃御祖父

入道殿より仰ふまゝのえさせぬがめりと関白大臣大納
言二人中納言の由やとてなすも次なるやきこし
りあつたる日本國は准一無二なりまゝなるの
はくくめはる由をなすのありき由深きなりは
乃多武峯石坊宮大臣乃山勝ち菩提のたもは極楽
寺忠平のおもはは法性九条殿楞嚴院あはれみりや
のはくりはる東大寺と併むりりしういめりきり
はくくめはるをなすこの無量ありきなりひは
はくくめはるよめりくくはくくめはるはくくめはるは都
率天の一院と天皇乃祇園精舎なりはくくめはる天
皇乃祇園精舎なりなり西明寺はくくめはるは

くりところこし西明寺は一院と六のつらくは太安寺に
うつこめはるなりあきもをいまいこと
無量寺院まきりはくくめはる南京うことくおなりちん
もをなすなり恒徳乃法性といまなり
なるとはをなすなりはくくめはる難波乃天王寺なり聖
徳太子のりはくくめはるはくくめはるはくくめはる
まきりなり七太寺十五太寺をなすなりはくくめはる
なはくくめはるはくくめはるはくくめはるはくくめはる
あきもはくくめはるはくくめはるはくくめはるはくくめはる
おなりはくくめはるはくくめはるはくくめはるはくくめはる
大臣なりはくくめはるはくくめはるはくくめはるはくくめはる

ねまのふ入道教く〜とてまう〜あはひ〜い〜んすふ
 よあわ〜れと祖の骨ね〜するよ〜の〜ん〜ん〜ん
 んぬ〜い〜う〜ま〜なるよ〜ら〜ら〜ら〜あ〜あ〜あ〜ん
 と〜木堂を〜ん〜ねん〜の〜ち〜よ〜あ〜い〜ん〜ん〜ん
 あり〜も〜は〜ら〜け〜ぬ〜い〜じ〜も〜あ〜い〜ぬ〜も〜あ〜く
 作ね〜あ〜び〜う〜せ〜ぬ〜い〜ふ〜あ〜ふ〜お〜ぬ〜い〜ん
 何〜ど〜あ〜く〜と〜す〜い〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 き〜い〜ら〜ふ〜え〜い〜け〜い〜き〜あ〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 あ〜い〜そ〜お〜ひ〜ひ〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 の〜ぬ〜ひ〜け〜ら〜ぬ〜船宿の〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 な〜ま〜い〜け〜ら〜ぬ〜い〜琴と〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い

人をほらうのぬあ〜は〜ら〜ら〜ら〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 一〜あ〜い〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜あ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 よ〜う〜た〜ん〜ね〜ら〜ぬ〜い〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜あ〜い〜ぬ〜あ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 い〜づ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い
 ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い〜ぬ〜い

とまきまきいんはくねはくからあつたりきりてし
はらうせうくちうとて天皇太后宮御うでをうりて
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
うちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
きつねはくねはくからあつたりきりてし
かきいんはくねはくからあつたりきりてし
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
あも中まきいんはくねはくからあつたりきりてし
うちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし

まきいんはくねはくからあつたりきりてし
園白友沢はくねはくからあつたりきりてし
あも中まきいんはくねはくからあつたりきりてし
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
あも中まきいんはくねはくからあつたりきりてし
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
あも中まきいんはくねはくからあつたりきりてし
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし
あも中まきいんはくねはくからあつたりきりてし
いんちうまきいんはくねはくからあつたりきりてし

らうりーからいりぬくもさるわらわのいり
にさるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
しあるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
さるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
もるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
のいあるるるるるるるるるるるるるるるるるる
はく道ふはくさるるるるるるるるるるるるる
ききかあるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
らりけるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

らうりーのいりぬくもさるわらわのいり
にさるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
しあるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
さるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
もるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
のいあるるるるるるるるるるるるるるるるるる
はく道ふはくさるるるるるるるるるるるるる
ききかあるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
らりけるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

いしうーあき^い後思ん^い後心^い——きりさおほく^い後心^い——年
いお女院こお大あをどけし^いまも^いおめ^いおりん^いを^いみ^い——
乃おあ^い——さまの^い後^い——ゆ^い——り^いう^いれ^いえ^いよ^いあ^いけ^い
を^いけ^い——れ^いを^い終^いふ^い出^いり^いう^いも^い皇^い太^い后^い宮^いの^いま^いや^いよ^い
ゆ^いそ^いけ^いい^い——ん^いく^い男^いひ^いゆ^いき^いど^い共^いも^いや^いの^い見^いん^いた^い人^いよ^い
し^いえ^いあ^いひ^いゆ^いぬ^いが^い口^い——い^いふ^いう^いに^いあ^いり^いま^いう^いゆ^いめ^い
る^いが^いな^いり^いふ^いり^い——お^いり^いま^い——や^いす^いん^いと^い男^いの^いほ^いひ^いそ^いう^いつ^いふ^い
う^いく^い中^いゆ^いう^いを^いお^いく^いと^いあ^いふ^いま^いよ^いく^いし^いひ^いち^いり^い物^いを^いお^いれ^いた^いか^いり^い
あ^いを^いす^いり^いも^いゆ^いり^いを^いん^いん^いひ^いり^いお^いり^いこ^いう^いう^いに^いあ^いり^い
と^いそ^いゆ^い——い^いで^いま^いり^い——か^いあ^いり^い——ゆ^いか^い——

文政十 天 閏六月廿九日写す

中村直簡

